

令和2年度 第2回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和2年12月11日（金） 午後7時～午後9時10分

2. 場 所：甲南図書交流館 ゆめ工房

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 福井千恵子 岩田 孝之 森口 衛
松本佐知子 山崎喜代美 中村ひろ子 山中 ルミ
竹村 吉史

【事務局】 杉本課長 岡崎参事 香取館長 篠原館長
奥山館長 片岡館長 今村館長

傍聴者なし

4. 次 第：（1）開会
（2）会長あいさつ
（3）第1回会議録について
（4）議事
① 令和2年度事業の経過について
② 甲賀市・湖南市広域連携事業の取り組みについて
③ 図書館評価について
（5）その他
（6）職務代理あいさつ
（7）閉会

5. 内 容

（1）開会

（2）会長あいさつ

今年はコロナの影響で、いつにない年の暮れを迎えている。

そのような中、ビジネス本がよく売れたようだ。残業がなくなり、時間ができたこと、また将来に不安を感じるビジネスマンが増えたということも要因のひとつかと感じる。

私も1冊持ってきた。

『独学大全』という本で、分厚くて重い。独学というから、一人でいろいろ勉強して社会人がいろいろなノウハウを学ぶ百科事典のようなもの。

そのなかに「書物とは何か」という文章があり、良い言葉だと思ったので紹介する。

「今日のように、世界がどれだけ速く変わっていかうとも、一度現れた書物は変化せず、そのままの内容であり続ける」ということと、「人々が歴史とか過去の事を忘れても、一度現れた本はずっと残る」「書物は我々を待っていてくれる。我々が必要になった時に、

いつかまたその人の手に取られて、それを読んで、行動を変えたり、いろいろ思いを巡らせたりすることができる」

この、「一度現れた書物は変化せず、そのままの内容であり続ける」「書物は我々を待っていてくれる」という2つのフレーズは、当たり前のことではあるけれども、私には感じるものがあった。

では、本が待っていてくれる場所はどこかといえば、本屋もそうだが商売なので売れなくなった本は廃棄される。やはり図書館しかない。

この本は手に入りにくかったが、今は市内の本屋でも平積みされている。

甲南図書交流館にもあり現在は貸出し中。何人かリクエストもついている。

興味ある方は手に取って読まれてみては如何かと思って紹介した。

(3) 第1回会議録について

特に異論なし。

(4) 議事

① 令和2年度事業の経過について

委員：広報に、「乳幼児おはなし会はしておりません」と毎月書かれているため、(対象が乳幼児以外の)おはなし会はしているのに、何もしていないように思われなかと、ボランティアが心配している。広報に「しているのもあります」と書けないか。

事務局：『広報こうか』に、図書館のページが1ページあったときには、おはなし会から色々なコラムのようなものまで載せさせてもらっていたが、現在スペースが圧縮されており、定例のおはなし会については、わかりにくい表記になっていたかもしれない。可能な限り、わかりよい表示に早急に変えたい。

委員長：滞在時間1時間というルールは、どのように管理しているのか。

事務局：コンピュータの使用は30分に制限しているので、長い方については、受付時間を書いているので、声をかけさせていただくことはあるが、一人一人の管理まではしておらず、今のところはお願という形である。

委員長：協力してもらえているのか。文句を言う人が出そうだが。特に学習室については。

事務局：ご協力いただいている。30分の時には苦情があったが、1時間になってからそれほど苦情はない。

委員：他の市町村の図書館でも同じなのか。

事務局：県下の図書館も、制限しながらという形である。基本的には県立図書館の対応に準じているが、まだ30分のところも多い。市レベルの図書館では30分から1時間が現状ほとんどであり、最近は(感染が)増加傾向になっているので、より注意をという状況である。

委員：施設としての換気はできていないのか。

事務局：この甲南図書交流館では、この冬でも玄関を開けばなしにして空気が流動するようにしており、館によっては、ロスナイ換気で館の温度を保ったまま換気をしているところもある。

委員：よく図書館に行っているが、人がいない状況を見ていると、1時間というのはべつによい気もする。あまり密集・密接という感じはない。私は本を探しても5～10分くらいで帰っている。

事務局：アンケート結果でも、大体の方が30分以内の利用である。1時間以内となると85～90パーセントの方は用事を済まされる。しかし、ずっと滞在されている方もいるので、同じ方がいるということは、感染拡大の原因になると言われているため、公共施設としては基準を作っておかないと節度が保たれないということがある。100パーセントの答えはないと思っているが、このような形で続けさせてもらっている。

委員長：他に質問がなければ、次の議事に移りたい。

② 甲賀市・湖南市広域連携事業の取り組みについて

事務局：広域連携について説明

委員：湖南市の図書館にどのような資料があるのかも調べられようになるのか。

事務局：それは今でもできる。市内の図書館で職員にお尋ねいただいてもご案内できる。

委員：利用カードは湖南市の図書館に行って作るのか。

委員：そうです。市内図書館と同じように本人証明になるものをお持ちいただき、手続きをして利用カードを作ることになる。それによってご利用いただける。

委員：返却にわざわざ行かなければいけないのは不便かなと思うが。

委員：こういう相互利用は全国各地に事例があるが、他市まで返却のための物流便を走らせるのは新たなコスト発生にもなり、借りた図書館に返却に行ってもらおうというのが標準的である。この形で実施したい。

委員：草津、守山など4市の広域連携でもそうか。

事務局：そうである。

委員：広域連携した場合、湖南市の休館日はそのままか。

事務局：資料記載のとおりであるが、現在コロナ禍で変則的な運用をしているとのことである。コロナが落ち着けば、この休館日に戻る予定と聴いている。

委員：利便性の向上について、数値的な目標とかあるか。例えば、貸出冊数見込みとか。

事務局：大きな目標は利便性と利用の拡大であるが、数値的な目標は現時点では見込めていない。

委員：やるからにはコストもかかるのだから、それがどれだけの効果を生むのかという点で、数値的な目標を持つべきと思う。

事務局：ご指摘は適切なので、湖南市と調整しながら数値的な目標や分析も見込みたい。

委員：図書館の人員が縮小されてきている。業務的な負担の点では心配だがどうか。

事務局：現状のサービスを後退させないことを前提で調整を進めたい。先例となる草津関連4市の広域連携でも、サービス開始後の各市の事務量がどうかわるのか読みづらく、実際に業務負担が過重になった市では、予約サービスの内容が途中から変更されたという経緯も聴いている。両市の人の移動の流れなどの要素も見込んで、先進事例を参考にし調整を進めたい。

委員：やってよかったと思えるように調整してほしい。

事務局：統計については、システムが同一なので連携させ、どこがどのように影響したかなどは整理できるので、調査分析をして報告したい。

委員：ただやるのではなく、後から評価できるのがいい。図書館以外の連携はないのか。

事務局：現状は図書館以外に進んでいるものはない。

事務局：市内図書館でも、湖南省の方が利用できないかという質問をされることは今までにあった。同じように甲賀市の方でも湖南省図書館を利用したいと思っておられる方もいると思う。

委員：ビブリオバトルで甲西図書館に出かけるが、本が借りられるのはいいことだ。

事務局：伊賀市の図書館では、甲賀市の市民でも利用カードが作れるとなっており、阿山と近い甲賀図書館情報館では、逆はできないのかと聴かれたがある。

委員：甲賀市になくて湖南省にある本を予約するのは、今でもできると思うが。

事務局：できます。その部分は変わらないが、これは県立図書館の物流便を使っているが、広域連携が実現すると、湖南省の図書館に利用可能な本があれば、予約ではなくすぐ直接借りに行くことも可能になる。

委員：今調べたら、伊賀市の図書館では名張市、山添村、奈良市月ヶ瀬、南山城村、笠置町、甲賀市にお住まいの方は利用カードを作ることが出来るとなっている。

事務局：隣接すべてで広範囲ですね。

委員：今はもうできないが、甲南に図書館がなかった頃は日野町の図書館を利用することができた。

事務局：今後6月1日スタートの向け、教育委員会や議会にも報告し、そこでの意見も踏まえ湖南省と細部の調整をさせていただくが、現時点で未定の事項も多くあり公表は控えていただきたい。

③図書館評価について

事務局：図書館評価について説明

委員：平成29年度の外部評価のときは、小委員会を何回開催したのか。

事務局：2回開催した。

委員：平成29年度の外部評価については、小委員会で説明を受け、その後コメントを各委員が書き、それを集計して、評価したと記憶している。今回も同じような方法でいいのではないか。

委員：Cの評価基準が理解できない。8割未満の実施でCというのは一般的な世の中では通らなく、ほとんどの方に理解してもらえないと思う。評価のCはどこからきているのか。B評価が8割以上、C評価が8割未満と書いてあるが、このような評価基準は初めて聞いた。この基準はおかしいと思う。

委員：数値目標であれば8割以上や8割未満という評価ができるが、数値目標がない項目や、言葉で表している項目については評価が難しい。

委員：8割未満がC評価とするところがおかしい。普通であれば5割、半分以下であればCとなると思う。ここは直してもらいたい。

委員：レファレンスサービスの充実については、目標値を大きく下回っており、5割台となっている。

事務局：今回の評価基準は、平成29年度の基準を準用した。平成29年度の基準設定については、この場では分からないので調べておく。

委員：C評価の考え方を整理してもらいたい。

事務局：8割の基準については、数値が評価しやすいように設定した。また、計画に上げたものは、必ず実施していくとの思いで評価基準を設定した。8割を切ると不十分であり、課題も多いと考えている。しかし、その評価基準が本当に適切かというところを検討する必要があると考えている。

委員：B評価の基準である、「概ね計画通り8割以上」も設定が高すぎるのではないか。この基準であればA評価となるのではないか。

委員：取り組んでいない事業についてはD評価であるが、取り組んでいて問題がある事業の評価はBやCになる。前回の外部評価についても図書館協議会がC評価をつけた事業はなく、やれない理由がはっきりしているものについてはBとした。自己評価と基準がずれていれば、図書館協議会側も考え直す必要がある。

委員：C評価をつけている事業に、「課題解決支援のための資料収集」「レファレンス事例の収集・活用」等があるが、職員が足りないという意味にも読み取れる。C評価のところがあれば、そこを補充していくという考え方もある。

委員：C評価のところをそのままにしておいて、今後、B評価に上げるために重点的に取り組むというのも一つの方法である。そのような説明があれば納得できる。

委員：先ほどの説明でも、「レファレンス事例の収集・活用」のところでレファレンスの受付件数が忙しくてカウントできていなかったとのことだった。実際のレファレンスのカウントが出来ていないのは、職員が不足しているからではないか。そのため、図書館協議会が「職員を増やせばどうですか」などと提案していけば、変わってくるのではないか。この評価から、弱みを補っていくことによってサービスを向上させようとする考えはくみ取れる。ただ、8割未満がC評価というのは、厳しすぎるので、6割から7割未満でもよいのではないか。

委員：頑張っているのにC評価であるのは、まずいと思う。C評価については、内容を吟味し、もう少しつめてほしい。

事務局：委員の方からご意見のあった評価の基準について、次回の評価から訂正したい。また、今回の評価が適切でないということであれば、持ち帰って内部評価をやり直すことも可能である。何割が適切であるかについても、調査して諮りなおすことも必要と考える。

もう一つの方法としては、次回からのサービスにつなげる意味において、この基準で今回の評価を行い、意見のところに評価基準の是正についても書き込み、かつ、外部評価の総論のところで、委員からいただいた意見も入れる。令和2年度の評価からは、その意見を反映させた内部評価を行う。3年後の外部評価には、委員さんの意見を反映した評価基準とする。

委員：他の市町の図書館評価の基準も同じか。

事務局：平成29年度のときの図書館評価については、他の自治体の評価基準を参考にしていると思うが、各自治体が一様ではないと思う。ご意見をいただいて、考え直す機会となり、今後、調査をしていきたい。

事務局：内部評価については、公表していないので、変更は可能である。もう一つの方法は、内部評価はこのままにしておいて、今回お聞きした意見を外部評価に入れることもできる。

委員：どちらでも構わないが、納得できる基準を出してほしい。頑張っているのにC評価というのはだめで、正確に評価を行った方がよい。

事務局：今回の評価はこのような基準とし、次回から、しっかりと説明できる基準により評価していきたい。

委員：できれば、今回の評価基準から訂正してほしいと思うが無理であれば、次回からは検討していただきたい。外部に出したときに、このような評価基準では説明できないと思う。

委員：今回は、8割の基準を深く追求せず、「目標を達成した」や、「不十分な点や課題が残った」、「計画通り実施できなかった」などのことについて評価していきたい。

事務局：内部評価の説明のため、小委員会を昼間と夜間に各1回行い、来られる方に1回来ていただくようにしたい。また、案内時に書き込みやすい記入用紙も送付する。

(5) その他
特になし

(6) 職務代理あいさつ

いろいろな意見をだしていただいてありがたい。

今、コロナ感染者が増えていて、皆が外に出られず「つまらない」という声をかけてくださる。

そんな中、保育園に行ったら「本いっぱい読んで」と離してくれず、本の人気が出てきているようでうれしく思う。園長先生も「図書館から毎回本をたくさん借りて助かっている」「ちょうど子どもたちにあう本を選んでくださってうれしい」と言っておられ、図書館ってすごいなあ、と思った。

自分も図書館に行っては毎回1時間近く本を漁っている。湖南省と一緒にいるかもしれないが、いろんな本をいろんな人たちが自由に借りられる世の中になったら、と思う。